

## 論文審査結果報告書

論文提出者氏名 有永 靖

学位論文題目 透析患者における唾液分泌量低下と健康関連  
Quality Of Life の関連

審査委員 (主査) 小野 堅太郎



(副査) 藤井 航



(副査) 角舘 直樹



### 論文審査結果の要旨

本研究は本横断研究であり、透析患者における唾液分泌量低下と健康関連 quality of life (HRQOL) の関連を包括的 HRQOL 尺度 MOS Short-Form 36-Item Health Survey (SF-36) を用いて検討したものである。

2008年5～7月に福岡県内透析専門病院にて血液透析治療を受けた患者347名中、本研究への同意が得られた212名を対象とした。安静時唾液分泌量が0.1 ml/min以下かつ刺激唾液分泌量が1.0 ml/min以下の者を唾液分泌量低下と定義され、全体の48.6% (103名)であった。唾液分泌量低下がSF-36のサマリースコアおよび下位尺度偏差得点に与える影響について一般線形モデルを用いて評価した。年齢、性別、透析原疾患、透析期間、現病歴、既往歴、body mass index、喫煙状況、飲酒状況を共変量として用いた。唾液分泌量低下とSF-36の下位尺度偏差得点である身体機能、身体的日常役割機能、全体的健康感、社会生活機能および身体的側面のQOLサマリースコアとの間に負の関連を認め ( $P<0.05$ )、透析患者における唾液分泌低下はHRQOLと関連することが示された。

以上の成果は、日本において増加傾向にある透析患者の多くが唾液分泌能の低下を示しており、それがHRQOLの低下と関連していることを示している。これは、透析患者のHRQOLの改善に唾液分泌機能回復に向けた臨床アプローチが有効であることを示唆しており、今後の歯科医療に大きく貢献するものである。公開審査において申請者が入念な実験計画とデータ解析を行っていることが確認され、本研究の課題と将来展望に関して申請者からおおむね適切な回答を得た。以上のことから、審査員会では本研究が学位論文として価値あるものと判断した。